



# NEWS

2008 No.209

## 8月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

### 水性塗料は世界の流れ

## 規制を先取りした取り組みでお客様にアピール 使い勝手も向上、導入に大規模投資は不必要

VOC(揮発性有機化合物)規制の施行から2年半が経過しました。

塗料メーカー各社も製品ラインナップを充実し、作業環境の改善と地球環境保全に向けて使ってもらおうと努力しています。

「環境」はあらゆるビジネスのキーワード、この流れに乗ることで事業の中身が変わってきます。

水性塗料は同業他社に差をつけるアイテムになるかもしれません。

06年に施行されたVOC規制は、2010年までに2000年度比でVOCの排出量を30%削減することを目標としたものです。30%の削減に対しては、規制対象となる大規模工場が10%、ディーラーや車体整備事業者など関係事業者の自主取り組みによる20%削減が目標とされています。

この取り組みを進めるため、昨年5月には自動車補修用塗料を対象にした「エコマーク」認定基準が導入され、水性塗料がクローズアップされるようになりました。続く昨年6月、東京ビッグサイトで開催された「オートサービスショー2007」では各塗料メーカーや機器メーカーが水性塗料や関連する機器を多く出展しました。さらにトヨタ、日産、ホンダなどの自動車メーカーやヤナセが、自動車補修用塗料として水性塗料を導入することをこの時期に発表しています。

大規模工場として規制対象となる自動車メーカーは積極姿勢を示し、すでに新車ラインで水性塗料を導入しています。こうした流れを見ると、車体整備業界を取り巻く環境が大きく変わりだしている、と実感できます。

VOCは、地球温暖化などの環境汚染や光化学スモッグなどの大気汚染の原因になります。自主取り組みによるVOC削減を求められているディーラーや車体整備事業者の皆さんも低溶剤系塗料の導入を進めていると思います。年間を通して湿度が一定しない日本の作業環境で苦労されていると思いますが、最近には必要に迫られ、塗料メー



百間は一見にしかず。あらゆる機会を通じて塗料メーカーは水性塗料をPR、各地でデモンストレーションも行なっている(写真は今年3月の開かれたIAAEでの水性塗料のデモ)

カーに対してデモンストレーションを要望する事業者も多くなりだしたようです。

水性塗料のメリットは、隠ぺい性の高さによる塗装効率の向上が挙げられます。「ウェット・オン・ウェット」と呼ばれる重ね塗りが可能です。塗装後のブロー作業は必要となりますが、総体的に塗料使用量が削減でき経費削減につながります。また、塗料メーカーの製品改良の努力により、溶剤系塗料とほぼ変わらない作業時間を実現しています。塗料メーカーによると、水性塗料の導入に際して「既存の設備をそのまま使用できる」との話で、大きな設備投資は必要ないようです。塗料メーカーで今後、水性ベースコートを開発し市場投入を予定するとすることも、製品拡充が期待されます。

世界の水性塗料関連の規制を見てみると、欧州は07年に、アメリカではカリフォルニア州が09年にそれぞれ自動車補修用塗料について水性塗料の導入を義務化します。韓国でも09年義務化に向けての動きが見られます。

今後、日本でもVOC規制が強化されると見る関係者もいます。これまでの自主規制ではなく、すべての車体整備事業者に水性塗料の導入が義務付けられるかもしれません。そのためには、早い段階から水性塗料を導入することで今後の規制強化に備える必要もあるでしょう。また、水性塗料の導入はリサイクル部品と同様、お客さまに「環境に配慮した整備事業」をアピールできるメリットがあります。

水性塗料に関する各塗料メーカーの対応（各社の回答に基づく）

社名	ホームページ	水性塗料導入に関する問い合わせ先	ユーザーに対する講習会などのサポート体制について
関西ペイント	<a href="http://www.kansai.co.jp/">http://www.kansai.co.jp/</a>	最寄の関西ペイント販売 およびカンベ共販各営業所	同社オートリフィニッシュセンター2拠点での開催のほか、出張講習や現地での技術担当者による技術指導
日本ペイント	<a href="http://www.nipponpaint.co.jp/">http://www.nipponpaint.co.jp/</a>	東京 03-3740-1124 大阪 06-6455-9122	全国各地でその都度開催
イサム塗料	<a href="http://www.isamu.co.jp/">http://www.isamu.co.jp/</a>	同社の全国各支店	全国直営研修センター4拠点、提携研修センター5拠点のほか、塗料販売店や事業団体の講習会に対して、要望があれば対応
デュボン/スタンドックス	デュボン <a href="http://www.refinish.jp/dupont/">http://www.refinish.jp/dupont/</a> スタンドックス <a href="http://www.refinish.jp/standox/">http://www.refinish.jp/standox/</a>	03-5521-8530 dpc.info@jpn.dupont.com	全国3拠点のトレーニングセンターを中心に開催。トレーニングスケジュールは同社ホームページで確認可能
ピーピージー・ジャパン	専用ホームページは無し	関西ペイント販売各営業所 または 同社補修塗料事業部 03-5480-2636	同社塗料を使用している事業者にて行うケースが多い
BASFコーティングスジャパン	<a href="http://www.basf-coatings.co.jp/">http://www.basf-coatings.co.jp/</a>	自動車補修・車輪塗料本部 045-546-8020	同社トレーニングセンターと全国各地での講習会、また「ユーザーサポート」体制による導入会社個別のサポート

## 水性塗料の塗装技術より、前処理・後処理が重要 塗料メーカーのコンサルを上手に活用し、導入を

日本の水性塗料市場は、10年以上の販売実績を持つ外資系の塗料メーカーがリードしてきました。後れを取っていた国内塗料メーカーも製品開発を完了し、主要塗料メーカー各社は水性塗料をラインアップに加えました。

既に水性塗料を導入した車体整備事業者は「低溶剤系塗料の作業スキルがあれば、水性塗料の塗装は難しくないと話しています。塗装作業自体ではなく、作業前の脱脂やクリーニング、作業後の乾燥などに注意しなければならないそうです。実務的には低溶剤系塗料と併用し、部品や小範囲の補修は水性塗料、広範囲の補修には低溶剤系塗料と使い分け、作業効率を高めながら環境への配慮も行っていきます。

水性塗料の導入で気になる点は、低溶剤系塗料との乾燥時間の違いではないでしょうか。乾燥した冬場など湿度の低いときは大きな差は出ませんが、梅雨時や夏期の湿度が高い時は乾燥時間がかかります。湿度管理機能や温風送風装置を備えた塗装ブースの設置が理想的ですが、既設の塗装ブースに追加するエアブロー装置の導入で設備投資を抑制できます。この装置は大手機械工具商社などが販売しています。

忘れていけないのは、水性塗料専用のスプレーガン洗浄機です。水性塗料のスプレーガンは水で洗浄できますが、洗浄で使った水をそのまま下水道に流すことはできません。専用スプレーガン洗浄機は、洗浄で使用した

水をフィルターでろ過して繰り返し使うことができます。一方、塗料成分は凝固剤で固形化し、廃プラスチックとして廃棄します。このほか、水性塗料の主成分が水であることから、温度管理機能を備えた専用の塗料保管庫の導入も必要です。

水性塗料導入に関して多くの塗料メーカーは、水性塗料に対する捉え方や対応できる設備を備えているかなどのコンサルティングを行い、アドバイスをしてくれます。講習会では技術担当者による講演と実演で調色から塗装作業までの一連の流れを教えてくださいました。こうした助言を得れば水性塗料へのチャレンジもそれほど難しいことではないようです。



### 家計の支出絞り込み鮮明

## ガソリン高騰でカーアフターは危険水域

レギュラー200円/ℓ時代も近いと思わせるガソリン価格の高騰、一般家庭では極力支出を減らそうと懸命です。総務省がまとめる家計調査にこの動きが鮮明に出ています。

ガソリン価格は断続的に上昇しています。ガソリン価格が高騰すれば表面的な支出である「名目支出」は増加します。負担が高まれば数量を減らして調整します。物価上昇分を差し引いた「実質支出」はマイナスになります。

総務省の調査では、家計のガソリン支出は見かけ上、昨年9月以来連続して前年同期を上回っていますが、価格が上昇したのが原因で、実質的な消費はマイナス基調が続いています。唯一、プラスになったのは、市況が緩んだ今年2月、ガソリン税が基本税率に戻りガソリン価格

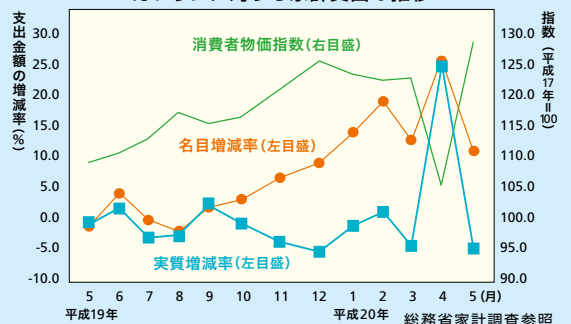
が下がった4月だけです。安値に振ればガソリンに対する支出は増えるのですが、価格が天井に張り付いたままでは、可能な限り支出を抑制し、家計を防衛しようします。（グラフ参照）

実際、今年5月以降、ガソリンの消費量は落ち込んでいます。それでも石油元売は7月、8月とガソリンなどの仕切り価格を連続して引き上げました。消費者の心理から言えば、ますます自動車に乗ることを手控えることとなります。乗らなくなれば当然、事故や故障も起こりにくくなりますし、タイヤなど消耗品の消耗度合いも減少します。

このところ都心の道路は空いていて自動車で行きやすくなったと感じられるのですが、商売は別

物、いやおう無しに厳しさを増します。ガソリン価格ばかりでなく食品なども上がっており、消費者は生活防衛に追われています。自動車の修理・整備などに費用はかけたくないと思う人も増えており、車関連の支出を促すためには知恵を絞らなくてはなりません。

ガソリンに対する家計支出の推移



NGP協同組合各委員長に聞く 第6回 三枝透組織委員長

# 逆風にめげず組織拡大の継続努力 内部を活性化し、強い組織を目指します まずは各社で知恵を出し合うことから

正規組合員および生産登録賛助会員の拡大を今期活動方針の筆頭に掲げた組織委員会。素材価格の高騰などもあり、組織拡大にとって逆風の環境ですが、この厳しい環境下で組合員各社を勇気づけるために内部活性化対策を検討しています。

組織活性化を通じNGP協同組合の魅力を高めることは組織拡大につながるからです。

## 一組織拡大の取り組みは

「今期、空白の2県で正規組合員を獲得すること、また生産登録賛助会員は各支部1社、全体で計10社獲得することを組織拡大の目標に掲げています。現実問題として素材の価格が高騰しており、自動車リサイクル部品の取り組みへ強い関心を持つ同業者が少なくなり、厳しい環境であると認識しています。部品流通システムもいろいろ登場し、NGPシステムの魅力をストレートに伝えることもありますが、その中で正規組合員、生産登録賛助会員を掘り起こす努力を続けていこうと考

えています」

## 一NGP協同組合の魅力を伝えることが組織拡大に重要です

「魅力を高めるポイントは協同組合内部を活性化することです。組合員同士で指導し合う機会を設けたい、との提案を行っています。それぞれの組合員から見て成功している組合員、理想的な組合員（経営者）に指導してもらうものです。積極的な事業展開をしている組合員の話聞く機会はありませんが、机上の話聞くだけでなく、実際の現場で指導してもらう仕組みを作り、指導する側と指導される側の仲介を組織委員会が行いたいと思っています。指導する側の人選もある程度進んでいます」

## 一狙いはどこにあるのですか

「自動車リサイクル法施行後、各社の事業スタイルも変化しました。部品の生産、販売も重要ですが、部品生産を伸ばすにはその前に使用済自動車の集荷力アップも必要になります。使用済自動車の集荷が伸びて、部品の生産も伸びるようになります。部品の販

売先も国内だけとは限りません。各社それぞれが取り組んでいるノウハウを全部公開しろとはいませんが、少しずつ出し合って全体がレベルアップできれば、NGP協同組合の魅力が高まるのではないのでしょうか。1社がひとつのアイデアを出せば150件のアイデアが集まります。知恵を持ち寄ることで強い組織にすることも可能です。いろいろな人の意見を聞いて組織の活性化に努めていきたいと思っています」



三枝 透（みえだ・とおる）  
1961年生まれ ふたご座 B型 趣味・ゴルフ

## 産構審、中環審、第12回自動車リサイクル合同会議開催

# 07年度の引取台数は371万台、 輸出を含め500万台水準を維持



自動車リサイクル法の施行が順調であること確認した第12回合同会議、法制度見直しのキックオフも兼ねた

自動車リサイクルに関わる産業構造審議会環境部会、中央環境審議会廃棄物・リサイ

クル部会の合同会議が7月11日、東京・三田の三田共用会議所講堂で開かれました。12回目となる合同会議で、自動車リサイクル法施行状況についてフォローアップすることが目的です。

合同会議の報告では、平成19年度の使用済自動車発生台数は国内処理分で371万台、輸出抹消された163万台と合わせると合計534万台となり、年間500万台に近い水準を確保。離島対策や不法投棄対策も進展し、使用済自動車の適正処理が順調に

進んでいるなどとした報告が担当官庁により行われました。

昨年の同会議の指摘に基づいて、最終所有者が引取業者に引き渡した使用済自動車の処理状況を確認するシステムが整備され、システムは5月6日から稼働しています。6月末までの約2カ月で24万5千件（1日あたり4400件）のアクセスがあったそうです。

これらを含めて合同会議は、自動車リサイクル法が順調に施行されていること、また自動車リサイクル法の附則に基づく法制度の見直しについて、今年9月から義務者・関係事業者へのヒアリングなど作業を始めることを確認しました。法制度見直しに関連して合同会議の場で、素材価格の高騰或使用済自動車の流通経路の変化など取り巻く環境が大きく変わったため、素材市況などの状況を配慮すべきだなどの指摘がありました。

## NGP 今月のCO2削減量

NGP平成20年6月： **6,803,584kg** （全12団体計：13,070,159kg）  
1月からの累計： **42,148,758kg** （全12団体計：79,621,701kg）

NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。





## 第2回初級フロントマンSTEP UP研修を開催 仲間を鏡に接客スキルを自己研鑽

第2回初級フロントマンSTEP UP研修が6月25、26日の2日間、静岡県裾野市のあいおい東富士センターで開かれました。今期から始まった研修プログラムは、ロールプレイングを通じてフロントマンの接客対応スキルをレベルアップすることが目的です。今回の受講者は8人。初日の1回目のロールプレイング後にグループ討議の時間を設けるなど、研修効果を高めるための手直しを行っています。受講者がお客様になって電話対応を受ける場面も設けました。



相手を評価するだけでなく、モニター画面を通じて自分自身を反省する。気づきの多い研修となっている

ロープレ中心の研修は、部品紹介の仕方や言葉遣いについて他社のフロントマンとの違いなどを発見し、これまでのフロント業務を修正して「お客様第一」を磨くことに役立てるものです。研修中、講師から「板金修理のお客様に対して納期は押さえるべきだ」などの当たり前の指摘にはっとする受講者も多かったように見受けられます。

「固定観念を捨てる、さまざまなお客様のニーズに応えられるように情報収集をするなど、自分に足りなかったものを発見することができました」（茨城オートパーツセンター・川村義則さん）。「始めのころはあいさつや言葉遣いを気にしていたと思いますが、だんだんお客様と親しくなるにつれ、そのことを忘れていたと思います。お客様と親しくなるのはいいですが、礼儀は大切です」（マルトシ青木・池ヶ谷直紀さん）など参加者それぞれに発見、反省がありました。「初級フロントマン」となっていますが、



グループ討議は反省のポイントを整理する機会でもあり、「いろいろな話ができたと好評だった

ある程度の経験者が「これでいい」との思い込みを修正する研修会でもあるようです。

またプログラムの修正点も受講者には好評です。「前日の討議で、いろいろなパターンでこの場合はどうするなどの討議ができたため、2回目は素晴らしい対応になっていました。みんなのロープレを見たり、討議したりするだけでこんなに違ってくるのだと驚きました」（トヨタエコパーツ岐阜・曾我和義さん）と話しています。

## 大橋商店を韓国環境部が視察 日韓廃棄物リサイクル政策対話の一環

7月11日、韓国環境部（環境省）一行が、NGP協同組合の理事長会社である神奈川県横浜市の大橋商店を視察しました。視察は2006年から始まった日韓廃棄物・リサイクル政策対話（局長級の政策対話）の一環で行われたものです。いくつかある政策対話のテーマの中で今回は自動車リサイクルがメインテーマとなりました。韓国環境部の要望で日本の自動車リサイクル制度の詳細説明とともに、関連する自動車リサイクル施設の見学を行ったものです。

大橋商店では大橋岳彦社長が使用済自動車の適正処理とリサイクル部品生産の現状について説明を行いました。韓国環境部はフロン処理態勢やリサイクル部品の共有在庫システムに高い関心を示したそうです。

韓国では「電気電子製品・自動車リサイクル法」が今年1月に施行され、本格的な自動



大橋社長が対応して適正処理の取り組みを紹介、フロン処理など寄せられた質問にも答えた

車リサイクルへの取り組みが始まりました。日本のようにリサイクル料金をユーザーから徴収することはありませんが、シュレッダー業者、シュレッダーダストの処理会社と一体となったコンソーシアムに解体業者も入り、使用済自動車の適正処理を進める枠組



みになっています。韓国環境部はリサイクル法施行直後のため、日本の自動車リサイクルの現状に強い関心を持ったようで、大橋商店とともに使用済自動車の大型処理施設である啓愛社の金沢リサイクル工場なども見学しました。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209  
http://www.ngp.gr.jp

(株)NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201